

自由集会 F3

イノシシの豚熱(CSF)感染拡大と生息密度の変動をいかに把握するか？

How to grasp the spread of swine fever (CSF) infection and population density trend in wild boars?

企画者:横山真弓・鈴木正嗣

要旨

イノシシにおける豚熱の感染拡大が継続している。2018年の豚熱発生時には、感染拡大防止に向けて必要となるイノシシの生息密度や行動特性に関する基本的情報が少なく、判断基準がない中で対応を余儀なくされた。今回のCSF発生はイノシシが各地で高密度化し、また分布が急激に拡大していると考えられる中で起こったため、疾病の拡散を防ぐ手立てがほとんどなかったと言っているだろう。また、対策を講じる自治体においては、データ収集と監視体制が欠かせないが、現在でも未発生地域では危機感が十分に共有されておらず、感染状況調査データが不足するケースが散見される。今後日本に侵入する危険性が高いアフリカ豚熱(ASF)対策では、CSF対応の反省点を明らかにし、事前にイノシシに関するデータを蓄積し、監視体制を構築することが急務である。

本集会では、最低限求められるイノシシの生息密度推定と疾病の簡易的な浸潤状況の把握に関する最新情報を報告する。さらに、必要なデータをいかに収集していくべきか、今後のイノシシのCSFの感染拡大防止及びASFの初期対応について、押さえておくべきサーベイランス方法について議論する。

講演内容

企画趣旨:横山真弓(兵庫県立大学)・鈴木正嗣(岐阜大学)

1. イノシシの広域的な生息密度推定とデータ収集 高木俊(兵庫県立大学)
2. イノシシの生息密度とCSFの拡散状況との関係 栗山武夫(兵庫県立大学)
3. 環境試料からのCSFウイルス検出法開発 鍋島圭(国立環境研究所)
4. CSFサーベイランス強化にむけた有害捕獲個体試料の活用 大沼学(国立環境研究所)

コメント 岐阜県家畜防疫対策課 野生いのしし対策室 小川 靖史 室長

参考資料)

農林水産省 野生イノシシにおける豚熱・アフリカ豚熱に関する基本対策(国内)

https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/eisei/usibuta_sippe/88/attach/pdf/220712-2.pdf